

# 第6回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

## 「困難の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか?!」 (人の尊厳に根ざす)生活困窮者自立支援の価値(意義・意味)を問う」

通信 1

### 歓迎挨拶

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事  
岡崎 誠也 (高知市長)



生活困窮者自立支援法が施行され、早くも4年が経過いたしました。

昨年6月の法改正では、「社会的孤立」にスポットを当て、関係性の貧困から困窮状態に陥ることを定義づけ、課題を抱えた方を捉える入口を大きく拡大することが重要であることを、広く社会に呼びかけています。

この制度の充実をさらに追及していくなか、多くの課題

が発生しますが、このネットワークは、支援の必要な方々の抱える課題解決に向けた大きな希望であること、そして、困難な社会的課題に立ち向かう支援者自身もバーンアウトしない、ともに苦しみやよろこびを分かち合えるいつでも立ち寄れる「居場所」であることを、第6回全国研究交流大会の場で再認識したいと考えています。

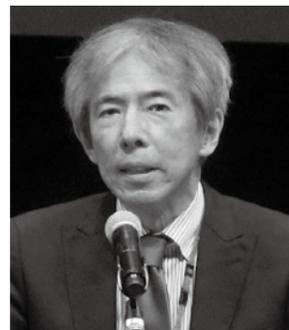
一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事 宮本 太郎 (中央大学法学部 教授)

孤立と困窮にいかに向かうか。今年はこれまでも増して、この課題をはっきりとつきつけられる年となっています。

3月には、内閣府が、40歳から64歳までのひきこもりが61万人を超えていて、そのうち半数近くが7年以上ひきこもっているという推計を発表しました。現役世代のひきこもりの数は115万人以上に達することが明らかになったのです。5月から6月にかけて、ひきこもり問題とも関連する事件が続き、衝撃をもたらしました。

この国で安定した生活から人々を弾き出す圧力が常に働いていて、いったん弾き出されると、やり直し、後戻りが困難であることが改めて明らかになりました。生活困窮者自立支援制度は、こうしたなかで、多様な困難を抱えた人々を社会にむすびつけていくさまざまな回路を創り出す仕組みです。

この制度が、この重要な課題を果たしていくために今求められることは何か。第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会で議論を深めましょう。



一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事 奥田 知志 (NPO法人抱樸 理事長)



皆さま、第6回仙台大会によるこそおいでくださいました！心より歓迎を申し上げます！

今年のテーマは、「困難の折り重なりに生きる人々に支援は届いているか?!」です。私たちが困窮者支援において目指したものは、「縦割り」を超えて「その人をその人として丸ごと受け入れる」という仕組みでした。つまり、「断らない」ということを国と社会が約束したのです。この「とてつもない約束」に対して、各地で創造的努力が重ねられてきたと思います。ただ、一

方で「困窮者自立支援制度」が「新たな縦割り」となっていないか心配になります。私は今回の大会で、「届いているか」を「自問」したいと思います。

制度の理念は、今や「地域共生社会」へと広がりつつあります。それをリードしていくのは先駆者である皆さんです。制度から人を見るのではなく、「目の前にいるひとりの人」からすべてを考え動き出す。この原点を、今一度大会において確認したいと思います。

## 第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会に寄せて 全国研究交流大会 メッセージ

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 顧問 村木 厚子 (元厚生労働省事務次官)

いよいよ、第6回生活困窮者自立支援全国研究交流大会が開幕します。皆さま、ようこそ仙台へ！

生活困窮者自立支援法は、この間の多くの関係者の皆さまの実践を踏まえて、法改正が行われ、充実・強化されました。しかし、この法律は、「この法律

だけでは自立できない法律」とも言われます。その心は、ほかのすべての法律や制度を駆使して困窮者の自立を支援することを想定しているからです。

今回の大会では、この他制度、多分野の実践者が数多く登場し、どうやって「みんなで困窮者支援

を進めるか」を考えます。ちなみに、国連の定めたSDGs(持続可能な開発目標)の目標の第1は、「貧困をなくそう」、そして第17は、「パートナーシップで目標を達成しよう」です。この大会で仲間を増やしましょう！

## 第6回全国研究交流大会に参加されている皆さんへのお願い

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク 前顧問 山崎 史郎 (駐リトアニア特命全権大使)

今年で6回目を迎えるこの大会は、日々困難な状況に遭いながらも、自立支援に取り組んでいる人たちが、せめて年に1度は集い、語り、そして助け合いながら前に向かって進んでいこうという趣旨で始まったものです。

人は決して一人ではありません。多くの方が自分と同じような問題に苦しみ、同じような悩みを抱えています。だからこそ、ほかの人と「つながる」こ

とによって、困難を乗り越えていくことができます。

私が今住んでいるリトアニアの人々も、かつてソ連併合下で同じような境遇に苦しんでいたラトビア、エストニアの人々とともに、600キロを200万人が手をつなぎ合いました(人間の鎖)。その30周年記念の今年、多くの市民が再び手をつなぎ合いました。私も参加しましたが、手をつなぎ合った隣の人から、大きな元気をもらったような気持ちにな

りました。

開会式の最後に出席者全員で手を「つなぎ合い」ませんか。支援の現場で同じような課題に苦しんでいるからこそ、支援者同士も「つながる」ことが大事だからです。



30年前(1989年8月)の「人間の鎖(バルティック・ウェイ)」の写真

## 現地実行委員会報告

今大会の開催にあたり、宮城県内20団体で構成される現地実行委員会が発足し、月1回の検討を重ねてきました。現地実行委員会委員長の新里宏二さん（生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事・弁護士）より、大会への思いを寄せていただきました。

宮城県内でも、台風19号及び10月25日の大雨により、大きな被害が出ています。

今般、「特定非常災害」が閣議決定されたことにより、本年度予算に計上されている生活困窮者予算の枠組みの中で、仮設住宅の見守り事案、相談事案（支え合いセンター）等について、国の10/10予算が活用できるようになりました。

私たちは東日本大震災において、被災者一人ひとりに寄り添った個別支援を進めていく「災害ケースマネジメント」が極めて大事であると気づき、まさに生活困窮者自立支援のスキームこそ、困窮者のみならず被災者の生

活再建にも有効な支援スキームだと考えています。

県内では、丸森町、大郷町等で大きな被害が発生しています。県をはじめ各自治体と協議しながら、全国の皆さまのさまざまな協力をいただくかたちで支援を進めていきたいと考えています。

今回の全国研究交流大会では、現在進行形の「被災者支援」についても意見交換し、交流していきましょう！特に分科会5では、「災害ケースマネジメント」を考えます。ぜひ、ご参加ください。



大会直前に行われ、本番に向けて盛りあがりを見せた現地実行委員会の様子

## 1日目見どころ案内

### シンポジウム

#### 「生活困窮者自立支援制度で誰かに支援は届いているか」

このシンポジウムは、生活困窮者自立支援制度が対処すべき重大課題でありつつも、十分に焦点化されてきたとは言い難い問題群、すなわち自殺問題、若い女性の困窮問題、刑余者問題、まちづくりとの接点について、それぞれの分野の第一人者からの問題提起をふまえて議論を深めていくものです。この制度が次のステージを目指すうえで、重要な気づきの場になるのではないかと思います。

●コーディネーター：生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 宮本 太郎

### 国会議員からのエール

昨年度の改正「生活困窮者自立支援法」成立に尽力された国会議員の方々が登壇し、制度に込めた想い、制度にかかわる皆さんへの応援の気持ちをお話しいたします。

#### 【登壇者】

自由民主党 鬼木 誠 衆議院議員  
公明党 山本 香苗 参議院議員  
立憲民主党 石橋 通宏 参議院議員  
国民民主党 小宮山 泰子 衆議院議員

## 本日は2会場で開催！

本大会では、会場定員の都合上、第1会場のけやきホールから第2会場の3号館323教室を中継でつなぐ、2会場での開催となっております。第1・2会場のご案内は、参加申し込み順となっておりますのでご了承ください。



大会に先立ち、11月2日（土）、アパホテル< TKP 仙台駅北>で大会講師、生活困窮者自立支援全国ネットワーク役員・社員、関係者による前夜祭が開催されました。「みんなが動き始めた！ 広がる困窮者支援の輪」と題し、生活困窮者自立支援全国ネットワーク顧問村木厚子氏が講演し、大会に向けた熱い想いを再確認しました。



## 大懇親会のご案内

本日18時30分から20時まで、「東北福祉大学181ホール」にて大懇親会を開催します。すでに300人以上の皆さまよりお申し込みをいただいております。受付の混雑が予想されますので、お時間に余裕をもってお越しください。交流、ご歓談、大抽選会など楽しい企画がもりだくさん！講師や参加者の皆さま同士の交流の場として、お楽しみください。

# 生活困窮者自立支援全国ネットワーク 会員募集

「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、生活困窮者自立支援法に関わる事業を担う人材のネットワークであるのみならず、すでに地域において生活困窮者支援に携わってきた人々、当事者、学識経験者などが、職種や所属等を超えて広く出会い、共に学び、共に支え合い、支援者としての資質の維持・向上や関係者間の連携の確保、あるいは関連政策の推進を図っていくことを目的としています。

制度が充実することは必要ですが、制度だけが強化されるのではなく、社会そのものが強化されることが重要です。「生活困窮者自立支援全国ネットワーク」は、人材育成と共に新しい社会創造を模索する場所として、生活困窮者支援に関わる人々が出会い、苦労を分かち合い、支え合い、学び合い、その中で新しい社会の創造への胎動が始まる場となることを期待します。

### ◎主な活動

- (1) 「全国研究交流大会」の開催
- (2) 支援員に対する「実践的研修セミナー（仮称）」の開催及び情報交換等
- (3) 行政等に対する政策提言など
- (4) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

生活困窮者自立支援全国ネットワークにご入会いただいた場合は、会員特典として参加費から3,000円を会費として振替させていただきます。大会参加費が7,000円となります。会員には月1回メールで生活困窮者支援の情報やシンポジウム等のお知らせをメルマガでお届けします。ぜひこの機会に会員にご加入ください。※すでに会員の方は、大会参加費より今年度の年会費として年会費3,000円を振替させていただきます。

会員申し込みについては、生活困窮者自立支援全国ネットワークホームページをご覧ください。

### ●生活困窮者自立支援全国ネットワーク

<http://www.life-poor-support-japan.net/>

### 学割のご案内

ご要望にお応えして、大会参加費に学割を設けました。当日受付カウンターで学生証をお見せいただければ、一般参加費10,000円のうち3,000円を返金いたしますので、学生の方はぜひご利用ください。

## 参加申し込み状況

### 分科会別参加者数 (2019年11月1日現在)

(単位:人)

#### ●午前分科会<9:30-11:30>

分科会1	108
分科会3	64

#### ●午後分科会<12:30-14:00>

分科会2	91
------	----

#### ●1日分科会<9:30-11:30/12:30-14:00>

(AM) (PM)

分科会4	102	104
分科会5	69	67
分科会6	60	61
分科会7	105	107
分科会8	84	111
分科会9	123	116
分科会10	74	120

### 都道府県別参加者数 (2019年11月1日現在)

(単位:人)

北海道	38	石川県	0	岡山県	13
青森県	7	福井県	6	広島県	5
岩手県	29	山梨県	0	山口県	2
宮城県	119	長野県	9	徳島県	8
秋田県	15	岐阜県	7	香川県	2
山形県	19	静岡県	6	愛媛県	9
福島県	10	愛知県	30	高知県	10
茨城県	9	三重県	14	福岡県	39
栃木県	9	滋賀県	14	佐賀県	11
群馬県	6	京都府	11	長崎県	4
埼玉県	10	大阪府	69	熊本県	28
千葉県	40	兵庫県	21	大分県	6
東京都	72	奈良県	6	宮崎県	8
神奈川県	22	和歌山県	5	鹿児島県	10
新潟県	10	鳥取県	18	沖縄県	10
富山県	1	島根県	4	合計	801

参加者のほか、講師、運営スタッフを含めて1000人を超えています。

## 出店ブースのご案内

けやきホールのホワイエにて、次の出店ブースがありますので、ぜひご利用ください。

- 中央法規出版
- 明石書店
- 新日本法規出版
- みやぎ生活協同組合
- 共生地域創造財団

### 編集後記

今年で5回目となる大会速報。大会期間中は、1日目開始前、終了後、2日目開始前、終了後の計4回発行予定です。会場受付などで配布しておりますので、スタッフまでお気軽にお声がけください。

(文責 事務局編集部)

厚生労働省委託事業